

一人ひとりの尊厳を支える地域共生社会の実現に向けて
—講義を通して得た学びと保健師としての役割—

大熊由紀子先生

多くの貴重なご講義をありがとうございました。

先生方の講義を通して、認知症、精神保健、障害福祉、地域福祉、法律・制度、海外の医療・福祉など、幅広い分野について学ぶことができました。それぞれ扱うテーマは異なりましたが、どの講義にも共通していたのは、一人ひとりの尊厳を守り、その人らしく生活できる社会を目指すという考え方でした。日本だけでなく海外の制度や支援についても学ぶことで、日本の制度の特徴や課題を多角的に考える視点を身につけることができたと感じています。

特に印象に残ったのは、制度や法律はそれ自体が目的ではなく、人が安心して生活するための手段であるということです。精神疾患を抱えていても、障がいがあっても、高齢になっても、認知症になっても、一人の人間として尊重され、自分らしく生活できることが何よりも大切であり、そのためには制度だけではなく、支援者一人ひとりの関わり方が重要であることを学びました。

私は2年前から、医療的ケア児の支援や子ども食堂でのボランティア活動を行っています。その活動の中で、支援を必要としている人に情報や支援が十分に届いていないことや、地域住民の関心の低さを感じるがありました。しかし、先生方の講義を通して、地域共生社会は専門職だけで実現できるものではなく、地域住民の理解や支え合いがあって初めて成り立つことを改めて学びました。将来保健師として働く際には、地域住民に分かりやすく情報を発信し、支援を必要とする人と地域をつなぐ役割を担いたいと考えています。

また、ユマニチュードについて学んだことは、私自身の経験とも重なりました。現在、私の親戚は認知症を患い、寝たきりに近い状態で生活しています。普段は表情の変化が少ないのですが、優しく声をかけ、手を握り、一緒に時間を過ごすことで、表情が明るくなり、自ら手や頭を動かそうとする様子が見られました。このとき、講義で学んだユマニチュードの考え方が思い浮かびました。講義で得た知識が実際の生活の中で結び付き、その大切さを実感できたことは、私にとって忘れられない学びとなりました。

この科目を通して、制度や支援方法を知るだけでなく、その背景にある理念や価値観を理解することの重要性を学ぶことができました。また、支援者は正しい知識を持ち、それを分かりやすく伝える責任があることも改めて感じました。先生方の講義で得た多くの学びを、今後の実習やボランティア活動、そして保健師としての実践に生かし、一人ひとりの尊厳を大切にしたい支援を実践していきたいと思えます。

多くの先生方から貴重なお話を伺い、これまで以上に視野を広げることができました。今回の学びを大切に、これからも学び続けながら、人と地域に寄り添える保健師を目指して努力していきます。本当にありがとうございました。